

令和2年度 第1回小牧市地域協議会推進市民会議 会議録

- 1 開催日時** 令和2年8月3日(月)
午後2時～午後3時20分
- 2 開催場所** 小牧市役所 本庁舎6階 601-1会議室
- 3 出席者**
 - (1) 推進市民会議委員 19名(欠席:関委員)
 - (2) 事務局 健康生きがい支え合い推進部 入江部長、江口次長
支え合い協働推進課 伊藤課長、臼井係長、岡田係長、丹羽
 - (3) 傍聴者 2名
- 4 会議資料**

会議次第、名簿、配席表

資料 1 小牧市地域協議会推進市民会議について

資料 2 地域協議会の設立・活動状況(令和2年7月末現在)

資料 3 小牧市地域協議会に関する条例について

参考資料 協議会未設立校区に関する人口データ等について
- 5 会議内容**
 - 1) 委嘱状の交付
 - 2) あいさつ
 - 3) 委員自己紹介
 - 4) 正副会長の選任
 - 5) 小牧市地域協議会推進市民会議について
 - 6) 地域協議会の設立・活動状況
 - 7) 小牧市地域協議会に関する条例について
 - 8) その他(次回以降の会議予定)

【事務局】

それでは、お時間になりましたので始めさせていただきますと思います。

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより第1回小牧市地域協議会推進市民会議を開催いたします。

本日は、関委員から欠席の連絡をいただいております。

会に先立ちまして、皆様をお願いいたします。

本会議では新型コロナウイルス感染防止のため、会議中は原則マスクの着用をお願いしております。

万一、息苦しさなどを感じられた際には、一時的にマスクを外していただいても構いませんが、発言の際にはマスクの着用にご協力をお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

次第では、まず初めに市民憲章の唱和となっておりますが、こちらにつきましては感染予防の観点から省略させていただきます。

また、次第の1、委嘱状の交付につきましても、本来であれば山下市長から委員の皆様へ直接委嘱状を交付させていただくところではありますが、会議時間短縮のため、お手元への配付にかえさせていただきます。

皆様には、誠に申し訳ありませんがご了承いただきたいと思います。

続きまして、次第の2、健康生きがい支え合い推進部長の入江より挨拶させていただきます。

【入江部長】

皆さん、改めましてこんにちは。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

この4月の人事異動、また組織改正に伴いまして、支え合い協働推進課を所管することになりました、健康生きがい支え合い推進部長の入江と申します。

今年度は新型コロナウイルスの影響によりまして、まず、会議開催が例年より遅れ、ご迷惑をかけましたことをおわび申し上げます。

さて、平成26年3月に陶小学校区で最初の地域協議会が成立されてから6年が経過しまして、現在、市内16小学校区中13小学校区で地域協議会が設立されているところでございます。

各地域協議会の活動も年数を重ねるごとに充実を見せまして、防災と交流以外にも防犯、福祉、環境、多文化共生など様々な課題に取り組もうとされているところであります。

本年度の会議では未設立の小学校区における地域協議会の在り方などについてご議論・ご意見をいただきながら、市内全小学校区での地域協議会の成立、

また既存の地域協議会におきましては、さらなる活動の充実を目指していきたいというように考えております。

最後になりますが、様々な分野で活躍されている皆様におかれましては、今後も引き続き貴重なご意見をいただきまして、ご議論・協議を重ねていく中で、地域協議会制度が市民の皆様にとってよりよい制度にしていきたいと思っております。

本市といたしましても市民の皆様とともに支え合い、助け合いの地域づくりを今後も一層進めていきたいというように考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げまして、甚だ簡単ではありますが私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

【事務局】

なお、入江部長につきましては、他の公務が入っておりますので、ここで退席とさせていただきます。

〔入江部長退席〕

〔各委員による自己紹介と事務局職員の紹介の後、委員の互選により会長に加藤委員、副会長に小柳委員が選任された。〕

【事務局】

それでは会長に就任されました、加藤委員からご挨拶をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【加藤会長】

ご推薦いただいたときに骨を埋めろということでしたので、その覚悟でお役に立てることは一生懸命やっつけようかなと思います。

でも、何より主役は小牧市の市民の皆さん、それから職員さんが中心になると思いますので、裏方として、できる限りの支援をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

【事務局】

ありがとうございました。それでは、以降の司会進行につきましては、会長にお願いしたいと思います。

加藤会長、よろしくお願いいたします。

【加藤会長】

それでは、会議を始めます前に、この会議は小牧市地域協議会推進市民会議設置要綱第5条第3項に基づいて、会議は公開されることとなっています。

先ほど、紹介がありましたけれども、本日2名の傍聴があるということですのでよろしくをお願いします。

それでは、お手元の次第をご確認いただいて、今日は3つ議題があります。

全て事務局からの説明が中心になりますので、メモをとりながら聞いていただいて、「ここがわからない」とか「こうしたらどうだろう」ということがあったら、議題ごとに質問とかご提案をいただく時間をとります。

それでは、次第の1つ目です。

小牧市地域協議会推進市民会議について、事務局よりお願いいたします。

〔事務局より資料1に基づき説明〕

【加藤会長】

ありがとうございました。

今の資料1についてのご説明を伺って、何か聞いてみたいとか、こうしたらどうだろうとか、どんな些細なことでも結構ですので、挙手をしていただいてご発言いただければと思います。

では水原委員、お願いします。

【水原委員】

今後期待される役割の中に、事務所となる拠点を持たない協議会の拠点候補の検討というのがあるんですね。

規約上、どこかに住所を持たないといけないので、会長宅や会館などになっていると思いますが、実際の事務所はなかなか持てないものですから、すごく苦労しています。

学校の空き教室を使うためには、いろいろな壁がありまして、まず組織が違うことから、空き教室の利用1つとっても、教育委員会と学校の考え方がそれぞれにある中で、地域協議会として教室を使わせていただきたいと申し出ても、なかなか難しい。

地域協議会代表者会議でもお尋ねしたのですが、ちゃんとした事務所を持っているところもありましたが、大半が検討中でして、どこの協議会でも大変ですね。

会館を利用しようにも、会館というのは区民のためにつくったもので、正規

の事務所みたいなものではありませんし、そこを事務所にしようとする、区との調整も必要になります。

担当職員の方も非常に苦勞していると思いますので、この辺を早めにやっていただきたいと思います。

【加藤会長】

今、水原委員から指摘があったのは、資料1の裏側の面ですね。

写真のところから数えると下から2つ目のポチのところです。

地域協議会は活動しているが、事務所となる拠点を持たず、実際に集まる場所とか基地的なものがないと、なかなか活動しにくいというご指摘です。

小学校の余裕教室を借りようと思っても、色々な壁があって苦勞している、という状況のようですが、事務局のほうで何か秘策やこういうふうに進めていこうと思っているとか、答えられる範囲で構いませんので、お願いします。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございます。

事務所につきましては、ご存じのとおり事務局としても何とかしたいという思いは持っておりますが、現状、一部の協議会で公共施設や会館を何とか調整して利用いただいているところです。

また、拠点とはなっておらずに、会議のたびに、その都度借りていただいているケースもありますので、活動が思うように進まないという現状があると思います。

学校施設に関しては、セキュリティーの問題やこの度のコロナの影響もあって、いろいろな方が出入りすることに対して、今後も慎重にならざるを得ない状況ではあると思います。

そこで今年度、教育委員会などと協力しながら、余裕教室の状況や協議会の活動拠点としての利用に関する可否などについて、改めて各学校等に照会をかけ、どのような形での利用が可能かどうか、この学校は大丈夫だけど、この学校は難しいという状況も出てくると思いますので、情報整理をしまして、またこの場で皆さんにご報告、ご相談をさせていただければと思っております。

秘策というものではなくて大変申し訳ないですけれども、よろしく願いいたします。

【加藤会長】

よろしいですか。

【水原委員】

ありがとうございました。

私どももコロナの関係から役員会がなかなか開けないものですから、どうしようかというときに、LINEのグループをつくりまして、そこで打合せをしています。

今回、第1回目の全体会議があり、そこで全体のLINEをつくって、情報共有をしながらやろうということになりました。

また、コロナ禍で不足したマスクを手作りする活動を行いました。これもLINEで皆さんと情報交換しながら企画したもので、今後の活動でもLINEを活用しながらやっていこうと思っています。

【加藤会長】

ほかに何か気づいたこと、小柳委員、お願いします。

【小柳副会長】

事務所は件ですが、これは将来的に、教育委員会や学校の間係を整理したうえで、可能な限り学校の中に設けるようにしていったらいいのではないかと思います。

少子高齢化の中で、私たちの桃ヶ丘小学校ではまだ460名くらいの児童がおりますけれども、かつては1,000名の児童がいたことから、恐らく余裕教室も出てきていると思います。

学校教育に支障を来してはいけませんが、その辺は長期的課題として考えていき、教育委員会ともしっかり調整いただいて、学校と地域とのつながりということで考えていただきたいと思います。

【加藤会長】

ありがとうございます。どうぞ。安藤委員。

【安藤(和)委員】

小柳委員の意見につけ足すような形ですが、現在、小牧南小学校では校舎の全面改築が進められており、その前は味岡中学校、その前は小牧小学校と少しずつ学校が建て替えられております。

そのタイミングで、地域で活用できるスペースをどこかへつくってもらえるよう、設計段階から話をすれば、かなり現実的な話だと思います。

余裕教室については、セキュリティーが独立した形できちっと維持できるよ

う、設備をちょっと直さないと管理の問題が出てくるので、そのあたりは教育委員会と話し合っていく必要があると思います。

私は、これからの学校は地域の中にあって初めて存在する、地域なくして学校は存在しえないと思っておりますが、そのあたり、校長会代表の新家先生はどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

【新家委員】

本校でも一番大きな課題として、コミュニティ・スクール化について協議しているところです。

校長会としても、安藤委員がおっしゃったことと同じ方向を向いて、学校ごとに考えながら進めているところだと思います。

ただ、物理的な課題としてセキュリティーの話がありましたが、学校にはセコムが入っているので、この管理が課題となります。

また光ヶ丘小学校でも最大規模のときは約1,200人の生徒がいましたが、今では360人ほどになり、ものすごく余剰教室があるだろうと思われがちですが、実際には、特別教室など、いろいろなことで使われています。

その辺をうまくすみ分けていけばいいのですが、今それをパッと地域や地域協議会、学校運営協議会などと分けようとしても、なかなかうまくいかない。

また、コロナ対策だけではなく、教育の効率ということも含めて、少人数での教育が大事だと言われてきている側面もあり、そうすると1つのクラスで授業を行うのではなく、担当者を分けて、分散しながら少人数で授業をするというようなことも行われています。

そのあたりのところで現存のものをすぐに、というのはハードルが高いのですが、理想としては今おっしゃっていただいたとおりだと思います。

子供たちにとっても地域の方の目が間近にあることはとてもいいことだと思いますので、校長会としても、地域と学校の両方にいい方法というものがないか、探していきたいと考えております。

【加藤会長】

ありがとうございます。無茶ぶりなのにさっと答えられて。

鳥居委員、お願いします。

【鳥居委員】

2点ありまして、1点目が今のことの関連です。

私は教室よりも体育館にそういう部屋があるといいなと思います。

なぜかという、体育館が避難所になったとき、そこに運営の部屋があるとスムーズだと思います。

またセキュリティーを考えたときに、学校側としても体育館という1つの空間であれば、管理がしやすいかなということを思います。

このいい例が味岡小学校の体育館は、まさにそのようなつくりをしています。

可能であれば、体育館の倉庫なりを少し改造していただくと、今後、避難所運営もしやすいということで、これは教育委員会と市の問題だと思いますが、そういう方法も1つあるかなと思います。

それともう1点、地域協議会と他の地域活動団体との協力事業の実施ということですが、これについても私ども防災についていろいろと協力事業をさせていただいています。

たまたま今、水原さんの地域協議会に私は一緒に入っておりますが、やはり協力事業というのは、途中から話すよりも、最初から一緒に事業を構築すると話しやすい。

なので、当初の地域協議会の目的の中に、多くの人に携わっていただき、地域の方以外にも、ボランティア団体とかいろいろ入っていたと思うのです。

ただ、今ちょっとボランティア団体、地域の人たちの入っている状況が少ないうような気がしております。今後、具体例を検討する場合に、そこに関わる構成員をもう少し考えてもいいのかなと思います。

【加藤会長】

ありがとうございます。体育館の拠点の話と、一番最初から関わってもらったということですね。ありがとうございます。

手を挙げられていましたので、お待たせしました。

稲垣委員お願いします。

【稲垣委員】

今後期待される役割に、地域協議会の未設立校区ということで、現在までに13校区で地域協議会が設立され、あと3校区が残っていると思います。

この3校区の設立で困難なところとか、そして、いつまでに設立するという大体の目標を持ってみえれば、その辺を説明していただきたいなと思います。

【加藤会長】

これに関して、梅田委員も言いたいと。

梅田委員の発言を聞いてから事務局の説明をお願いします。

【梅田委員】

ちょうど私もお話ししようと思っていたのですが、私たちは、まさにコミュニティセンター運営協議会として応時中学校区で活動しており、その中に地域協議会未設立の米野小学校と小牧南小学校が入っております。

なぜできないのかというと、私は春日寺のパトロール隊の代表として参加していますが、ふらっとみなみを拠点とするコミュニティセンター運営協議会にも参加しておりまして、その中で防災、防犯、福祉などの活動を実施していますが、そのやり方が応時中学校という広い範囲になっています。

それを小学校に持っていかなくてはいけないのか、中学校区のままでも良いのか、その辺のところを私たちの会長を中心にいろいろ試行錯誤をしている状況なのです。

ただ、私たちの会長は地域の皆さんを招集する立場ではないこともありまして、なかなか地域の方たちとの会合の場が設定されないので、それを市のほうで、何とかうまくやっていただけないかなと思っております。

私としては今現在、ふらっとみなみでやっていることを解体する必要はないのではないかなというふうに思っているのです。

【加藤会長】

ふらっとみなみのコミュニティセンター運営協議会が中学校区を対象に総合的にやっているのです、わざわざ小学校単位をばらして立ち上げなくても…。

【梅田委員】

はい、いいのではないかなと。

【加藤会長】

すごくいい意見ですね。

小柳委員もそんなことをお話ししていましたが、エリアの問題ですね。

これを併せて事務局のほうに一度お尋ねを。設立状況の見直しの話と、おおむね小学校があったと思うのですけれども、実際のお話を聞いてどうか。

【事務局】

まず、稲垣委員の地域協議会の設立の見通しと、なぜできないかというところですが、なぜというところは、梅田委員にお話しいただいたとおりです。

コミュニティセンターの運営協議会は、南部地区の応時中学校区と西部地区の小牧西中学校区というところで活動されていますが、応時中学校区につきま

しては、先ほど説明もありましたとおり米野小学校区、小牧南小学校区どちらも地域協議会はありません。

しかし小牧西中学校区では、三ツ渚小学校区が既に地域協議会として立ち上がっており、もう片方の村中小学校区のほうでは立ち上がっていないというような状態で、同じコミュニティセンター運営協議会でも異なる状況にあることが、1つ課題になっているかと思います。

今年度、条例で「概ね小学校区」とされている協議会のエリアについて、皆さんと地域協議会推進市民会議の中で、あるいは読み替えていくということになれば、中学校区での地域協議会の設立とか、そういった話もできるのかなというように思っております。

そうなれば、今年度中に地域協議会の設立に向けて動いていけるのかなと思っております。

【加藤会長】

ありがとうございます。稲垣委員もよろしいですかね。

【稲垣委員】

いつまでにつくるわけ。目標。今年度。

【事務局】

早いにこしたことはないのですが、今年度に入って早々にでも地域の方々に話しに行こうと思っていたのが、コロナの関係でできていない状況があります。

やはり地元ときちんと調整がつくことが大前提になりますし、地元の方々の意向を最大限に酌みたいと思っておりますので、その話し合いを今後落ち着いてきた段階でしていくと、これまでのスピードを考えると、今年度地元とお話し合いをさせてもらって、来年度中ぐらいに立ち上げになるというのが現実的ではないかなと思っております。

もちろんそれが早まって今年度中にできれば、それにこしたことはありませんが、現実としては、そんなところかなと考えております。

【加藤会長】

今度は資料の2と3について、併せてご説明いただいて、それで意見交換をしましょう。

お願いします。

〔事務局より資料2、3に基づき説明〕

【加藤会長】

資料が2つありましたが、説明の中でピックアップされたもの以外にも、おもしろそうが多様な活動が増えているのがわかりました。

もう一つは、文字ばかりですが、ちょうど右上に資料3と書いてあるうちの第2条が、先ほど梅田委員の言われた地域協議会を設置する区域が「概ね小学校区」というところですよ。

「概ね」なので、必ずということではないのかもしれませんが、この辺も含めて、何か「ここをちょっと聞いてみたいよ」ということでもいいですし、先ほどのように「こうしたらどうだ」というご提案でも結構ですよ。

公募委員の中村さん、お願いします。

【中村委員】

ご説明にありました第8条のところ、財政支援とありますが、資料2に記載の決算額というのは実際に使われた額なのか、また支援のうち何%くらいが利用されているのかとか、その辺のことについてお尋ねしたいです。

【事務局】

まず、資料2の決算額については、お見込みのとおり地域協議会が支出し、市が補助した対象の経費ですので、実際に使ったお金ということで間違いありません。

それから、市の支援制度が何%くらい使用されているかというご質問ですが、財政支援としまして、市の地域助け合い交付金は、地域協議会が作成する事業計画に基づき事業費を交付しておりますので、この執行状況という意味では、大体7割から8割程度の事業費が実際に執行されているというように理解しております。

ただ、活動が長く続いている地域協議会ほど過去の実績から事業費を計上できるため、執行率がよく、設立間もない協議会では、初めて事業費を計上するため、執行率が50%以下だったりする場合があります。

また、このほかに市職員が地域パートナーとして地域協議会に各地域に入っており、これは100%全ての地域協議会に入っております。

【中村委員】

どうもありがとうございました。

【加藤会長】

いい質問だったと思います。

ほかに、どうぞ。安藤委員お願いします。

【安藤(和)委員】

資料3の条例なのですが、第4条の認定の(2)の途中で「規約及び市長が定める基準に基づき公正に～」の規約と市長が定める基準というのは、どこを読めばいいのでしょうか。

【事務局】

規約に関しましては、各地域協議会が設立の際に規約をそれぞれ設け、これでもって地域協議会を運営する、としております。

それから市長が定める基準につきましては、市のほうで地域協議会の制度方針というのを定めておりまして、こちらに地域協議会の委員の選定等について記載があります。

【梅田委員】

交付金の件ですけれども、決算額の差がすごくありますが、これは最大限の金額というのは決められているのですか。

【事務局】

学区の人口に応じまして人口割等で計算しておりますので、各地域協議会によって金額額は異なりますが、上限額は存在します。

【加藤会長】

今気づいたのですけれども、先ほどの中村委員のご質問もそうなのですが、どういう仕組みで、どんな応援があるのか、全部パンフレットのつくってあったと思いますので、あれをやはり新任委員さんにもお配りをして、共有していただくと「私は知らなかった」というようなことがないように思うので、そこだけフォローしていただいてもいいですかね。

僕からのお願いということで。

ほかに、どんなことでも。小柳副会長お願いします。

【小柳副会長】

私は地域協議会の設立やその後の活動を校区の住民全体に周知することが重

要だと思えます。

私の桃ヶ丘小学校区でも去年、協議会が設立されましたが、約2カ月という短い期間でつくり上げたこともあって、区長さんを中心に、各種団体、民生委員さん等で設立総会をやって、その結果を回覧でお知らせしました。

今年も、本当は4月19日に総会をやる予定でしたが、このような状態で総会は開けず、運営委員会で決めた内容を決定事項として回覧をさせていただいたところです。

それから、「桃花台まつり」という大きな祭りがあるのですが、これも4月25日に主要な区長さんに集まっていたいで中止を決定し、5月の連休後、地域の皆さんに回覧しました。

もう一つ、事業計画のレクリエーション運動会では1,000人以上集まるのですけれども、これも6月21日に中止を決定し、これもまた回覧で連絡しました。

また、中止、中止で縮み上がってはいけないので、事業計画にはなかったのですが、中止事業の代替に、学校の草取り奉仕をしようではないかということで準備しており、9月27日に約1時間、150人ぐらを集めて、実施する予定です。

学校や先生方、生徒も大変だと思えますので、これまでとは少し違う形で、私ども地域の人間がお助けできるということがあればと、8月に入って各地区に回覧をするように既に作り上げております。

【加藤会長】

ありがとうございます。

ほかに全体を通してありましたら。

鳥居委員、お願いします。

【鳥居委員】

1にも関連しますが、昨年度の事業を見ますと、やはり新型コロナウイルスでの中止が多いです。

でも私はこの状況が1年で終わるとは思えませんので、改めて新型コロナウイルスに対応する事業はどのようなものがあるのかということも検証していく必要があるのかなと思います。

私は、防災リーダー会の会合はほとんどZoomでやりますし、オンライン講演会も多くなっています。

「自分にはできない」と思われがちですが、今後のことを考えて、ZoomやLINEの利用について、地域協議会で学習会をするとか、そういうことも必要で

はないかなと思っています。

そういうことを各地域協議会に市から働きかけていただくことで、なるべく温度差がないように地域協議会がそれぞれに取り組める体制をつくっていただくといいかなと思いましたが、提案です。

【加藤会長】

ありがとうございます。非常にいい提案だと思います。

ちょっと、ここまでの話をまとめますね。

皆さんから出た意見で、おおむね5つありました。

1つ目は、事務所の問題で、地域協議会の拠点となる場所を確保すること。

特に学校がいいのではないかという声と、学校の中でも余裕教室ではなくて、例えば、体育館で避難所運営と兼ねてやれないかななどの意見がありましたが、これは多分、どの地域、どの小学校でも一律に定めることは難しいので、個々に当たっていくしかないと思います。

また事務所の形態として、必要な物を置いて事務所として専有するのか、それとも時々間借りをしてということでもいいのか、使い方によっても良い悪いとか、セキュリティ上どうかということも出てくると思うのです。

ですので、それを検討していかなければいけないというのが、1点目です。

2つ目は、去年も一昨年も話題になったと思うのですが、地域協議会のエリアの話です。

概ね小学校区となっているけれども、実際にコミュニティセンター運営協議会でも、中学校区で地域協議会に近いことができている現状、その活動をどのように位置づけるのか、認めていくのか、はたまたアレンジしていくのか、それが大きな問題だと思います。

3つ目が、もう一度改めてニューメンバーになったので、制度とか仕組みの共有をしっかりとる。

特にどういう応援の仕組みがあるのかというのを、もう少し具体的にわからないと誤解されてしまったりするでしょうし、どういう理念とか、どういう趣旨で始めたのかということ、もう一度確認する必要があるというのが3点目です。

4つ目は、小柳委員の言われた、つくったはいいけれども、やはり活動の周知徹底とか、中止とか急な連絡もあるので、地域の中で地域協議会がどういう情報発信や連絡をしていくのかというのを、問われているところだと思うので、それはきっちりやっていかなければいけませんよねという話。

5番目は鳥居委員が言われましたウィズコロナの話です。

コロナとともに活動していくということは、今までどおりにはいきません。かといって、全部中止にするのではなくて、今なりのやり方ということで、特にLINEを使われたり、Zoomを使われたり、今まで食わず嫌いでやらなかったことにも挑戦してみようということです。

我々もそうですが「オンラインで授業をしろ」と言われて、「えー」みたいなところもありましたが、でも泣く泣く家でやると、やらざるを得なくなったりしますよね。

そういうやり方、もっとほかにもあるかもしれないので、そういうことを考えていきたいと思いますという、以上5点が今日出てきたことのポイントかなと思いますが、せっかくなので、伊藤先生からアドバイスとか、気づいたこととか、感想のようなものを一言、二言いただければ。では、お願いします。

【伊藤委員】

5つ挙げていただきましたが、多分3つについてはインフラということで共通すると思います。

我々は本当に今回、苦勞をさせられました。

やったことのないオンライン授業を初めてやったので、本当に大変でしたけれども、でもやったことによって見えたこともいろいろあって、これまで参加してこなかった人たちが入ってきやすくなったのですね。

これは、学校の先生方もご存じだと思いますけれども、不登校だった子供たちがZoomだったら朝の学活の時間に入れるということがありました。

そういう形で地域協議会にもオンラインだったら入りやすいという人たちをニューメンバーとして迎え入れる、いいきっかけをつくれると思うので、やはりICTをスキルとして入れていかないといけないと思います。

それが結局、周知の問題、今の回覧だと、その都度、その都度、待たなければいけないのが、それこそグループLINEとかであれば、すぐ連絡が来る、そういう即時性、情報の即時共有はすごく大事なので、それはすごくいいと思っています。それが1つです。

もう1つは、地域協議会のエリアの問題ですけれども、もともと条例の第2条で、地域協議会は小学校区が原則としたのは、その小学校区内に2つできたら困るからです。

だから、中学校区でつくっても、条例上、それは矛盾にはならないので、合同とかつけていただいて、それで1つでいいのではないのかと聞いていて思いました。

確かに単位としては小学校が一番いいけれども、このもともとの条例は1小

学校区に2つつくるのは困るというもので、だから中学校区でやるのであれば、そっちで動いてもいい。

関連して愛称の話ですけれども、三ツ瀨小学校の地域協議会の愛称に「コミュニティ」という言葉が入っていますが、これはすばらしい。

これこそすごく大事で、言葉の意義として、私たちはそれに参加していますよというのが「コミュニティ」です。

「上から降ってきた地域協議会なので仕方なくやるか」ではなくて、「自分たちがつくっていくよ」というのがコミュニティなので、これはすごくいいイメージだなと思います。

ふらっとみなみのほうは既にお名前があって、それで運営されていますし、その中でエリアとしてはちょっと大きい中学校区だけでも、他の小学校区と重なるというわけではなく、小学校区が2つあるけれども、ばらばらではない、そういう意味では排他的でないので、これは認める方向でいていただいたほうが良いと思います。

そうすれば残りの1校区になるわけです。

誰でも最後というのは嫌でしょうから、今2校区でこうやって動いていますとアピールしていけば、「うちも何かしなければいけないかな」となると思います。

それから、小学校の空き教室という話がありましたが、今、文科省はだんだん少人数にしていくという方針の中、しかも今度は小学校の高学年は教科制になります。

教科担当制になると当然教室も必要になってくるので、空き教室という概念はちょっと抑えていただきたい。

そのかわり、今年から始まっている小学校の学習指導要領、中学校は来年からになるのですが、これまでも言ってきたように社会に開かれたということがすごく大事になっていて、実は随分前からコミュニティ・スクールを文科省はやっているのですけれども、全然進まない。

これはやはり教育委員会とコミュニティづくりを進めている部署が違うという行政の縦割りがすごく大きな問題で、それこそ幼稚園と保育園のようではないのですけれども、管轄が違うためにジャンプができない。

でも実際にジャンプしている自治体はありますので、そういう自治体も参考にさせていただきながら、1校、1校という発想はしないほうが良いと思います。

市で横断的に「こういう学校づくりをする」というようなプロジェクトを組んでいただいて、地域の皆さんもいつでもメンバーに入れるような、縦割りを横に割っていかないと実現しないです。

小学校区単位でやっていたら絶対無理です。

なので、教育委員会と市は「こういう姿勢なんだ」ということをきちんと示さないとこういう話は進まないと考えています。

【加藤会長】

ありがとうございます。ということで、大体時間になったのですが、水原委員、どうぞ。

【水原委員】

中学校区で良いとなった場合、既に小学校区の地域協議会が活動している地域では、その上に中学校区の地域協議会がかぶさってくるようなイメージを持たれないでしょうか。

その辺、ちょうど私どもの地域は学区がまたがっているものですから、同じ区でもこちらの小学校に行くところあるし、隣の小学校に行くところもある。

中学校が入ってくると、その辺がどうだろうとちょっと心配します。

【事務局】

伊藤先生の話は、恐らく全市的に中学校区にしていこうという話ではなくて、小牧南小学校と米野小学校に関しては両方とも地域協議会がない中で、応時中学校区で活動されているふらっとみなみ運営協議会さんがたまたまあるというところ、その1点についてお話いただいたのかなと思っております。

【水原委員】

ちょっと余分な心配なのですけれども、先ほど言いましたように小学校単位でできているところに、中学校ができると私らはどちらで活動をすればいいのとなりかねないのではないですかということでした。

【加藤会長】

心配されたんですね、大丈夫です。

では、ほかに言い残したことがある人は最後のチャンスですが、よろしいですか。

[発言なし]

【加藤会長】

活発なご議論をありがとうございました。

本来なら全員からご意見をいただこうと思ったのですが、お時間になりましたので、また次回ということで。

では、進行のほうを事務局のほうへお戻ししたいと思います。

どうもありがとうございました。

【事務局】

加藤会長、本当にどうもありがとうございました。

それでは最後に健康生きがい支え合い推進部次長である江口から挨拶させていただきます。

【江口次長】

本日は皆さんどうもありがとうございました。

ほとんど加藤会長に5つの論点も含めて、まとめていただきましてありがとうございます。

また、今日はコロナウイルスの関係でパーテーション等がありまして、なかなかしゃべりづらい状況かなと思ったのですが、非常に活発なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

地域協議会の取組ですが、私が言うまでもなく、地域をステージとして行っていただいておりますので、市の横断的な取組、戦略というのも大切な要素ではありますが、行政の力だけでは到底構築できないものです。

そうした意味におきましては、皆様方との対話を通して築き上げていくものだなというように考えておりますので、この会議につきましても、加藤会長、小柳副会長を中心に、雰囲気は和やか、意見は活発という形で、今後も進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。

【事務局】

本当に皆様、どうもありがとうございました。

これで第1回地域協議会推進市民会議を閉会いたします。

お疲れさまでした。